

都市再生整備計画(第1回変更)

あぶらつちく
油津地区(第4期)

みやざき にちなんし
宮崎県 日南市

令和7年2月

事業名	確認
都市再生再編集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォーカブル事業	☒

都道府県名	宮崎県	市町村名	にちなん し 日南市	地区名	あぶらつ 油津地区(第4期)	面積	100.7	ha
計画期間	令和6年度～令和10年度	交付期間	令和6年度～令和10年度					

目標

大目標：歴史・文化資源の利活用により魅力ある観光地を形成し、新たな人の流れを取り込むことで、交流人口や関係人口の増加を目指す。

目標1：地域資源の魅力を磨き、エリアの価値を向上させる

目標2：まちなかの回遊性向上

目標3：官民一体となった賑わいの創出

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

1 日南市の概要

(1)日南市の現況

日南市は、若年層の流出をはじめ人口減少が顕著に進み、地域の活力低下やコミュニティ機能の低下、更に、歴史文化の継承が困難となる課題に直面している。

そのため本市では、このような課題を解決するため、新たな人の流れを生み出すことで、「ひと」が「しごと」を呼び「しごと」が「ひと」を呼びこむ好循環を確立させることが、施策として位置づけられている。今後、交流人口や関係人口などを、本市へ引き込んでいくことが重要となっている。

(2)新たな基盤整備

一方では、東九州自動車道の開通(R5年3月一部供用開始)や新型コロナウイルス感染症で休止していた日南市油津港への大型クルーズ船の寄港の再開によって、市内外から観光客を含めた人の流れが増加する絶好の機会となっている。

(3)観光地の形成

このような絶好な機会を活かし、観光客をターゲットした観光地の形成が求められている中、本市では、鶴戸神宮や飫肥城下町など県内で有数の観光資源を有しているが、観光客の滞在時間が短いことが課題でもある。

そのため、クルーズ船が寄港し、歴史・文化資源が豊富な油津地区を観光客などが訪れるまちの形成に努め、鶴戸神宮・飫肥城下町・油津地区などを運動し、面による人の流れをつくり、市全体の活性化につなげる。

2 油津地区の概要

(1)油津地区のまちづくりの経緯

油津地区はかつて、漁業や木材業等で栄え、宮崎県内でも鉄道や上水道等のインフラが先行して整備されるなど県南の中心的な都市であった。しかし、少子高齢化や郊外への大型店舗の進出などにより、人の通行量や消費量の減少が顕著に見られるなど、同地区の賑わいも衰退したことから、平成24年度に、日南市中心市街地活性化事業(～28年度)に取り組んだ。

中心市街地活性化事業では、「誰もが楽しめるまちの形成」「便利で安心なまちの形成」「新たな来街を促す観光地の形成」の3つの基本方針で計画を進めた。結果、商店街の空き店舗の解消をはじめ子育て支援施設、市民活動支援センター、住居施設等が整備され、商店街エリアの賑わいの創出を図ることができた。しかしながら、港・堀川運河周辺区域に点在する歴史・文化遺産を活用した「新たな来街を促す観光地の形成」については、十分な成果が得られなかった。

課題

①新たな人の流れをどのように取り込んでいくか

②滞在時間が短く、観光消費額が少ない

③地域の活力低下、コミュニティ機能低下、歴史文化の継承が困難

将来ビジョン(中長期)

①日南市重点戦略プラン(2020-2024)(平成27年度策定・令和2年度改定)

・日南市ならではの多層的な歴史・資源の観光資源の魅力向上

・地域で文化財保護に取り組む気運の醸成

・文化財を活かした地域づくりに取り組む団体等の活動支援とそのような団体が行政と地域の橋渡しを担う仕組みの構築

②日南市歴史文化基本構想(平成23年度作成)

【目 的 1】 急速に失われつつある地域固有の歴史や文化、伝統を示すものを再発見し再評価することで、市民が自分の住む土地に誇りを持つ

【目 的 2】 地域の歴史や文化、伝統に誇りをもった市民が、地域の個性を生かした、魅力あるまちづくりに取り組むための理論支柱としての活用

【油津地区】 油津の歴史や特色を生かしたまちづくりを推進していくべきである。

③日南市都市マスタープラン

「地域生活拠点の「コアゾーン」」、「歴史的まちなみ景観活用エリア」、「観光振興重点推進スポット」に位置付けられている。

観光客の維持・拡大を図るため、市内に多数存在する観光資源を周遊。堀川運河周辺を設定。

④日南市歴史風致維持向上計画(2023-2026)(平成24年度作成・令和5年度改定)

一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画

※一体型滞在快適性等向上事業の場合もしくはまちなかウォーカブル推進事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

滞在快適性等向上区域の考え方

ガイダンスセンターから、南側の油津港までの約800mを滞在快適性等向上区域として設定し、油津港や堀川運河周辺に点在する歴史・文化遺産を観光資源として磨き上げ、回遊性の向上と滞在時間の増加を図る。

また、回遊性の促進を図るため、ガイダンスセンターを来訪者のランドマーク的な施設に位置づけ、周遊促進のための情報を発信することで、区域内への誘導を図る。更に、来訪者が長時間滞在できるための仕掛けづくりや交流スペースの整備等を行う区域とする。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地域資源を活用した観光地の評価	%	地域資源を活用した観光地の形成の評価	新たな人の流れを取り込むため、歴史・文化遺産等の活用によりエリアの価値を向上させ、魅力的な観光地を形成する。その成果を市民アンケートで検証する。	満足・やや満足 19.5%	R4年度	満足・やや満足 40%	R10年度
港・堀川運河周辺の通行量	人/8h	滞在快適生等向上区域内での歩行者数	ガイダンスセンターでの情報発信や回遊性を向上させる仕掛けづくりにより、まちなかの歩行者数を増やす。歩きながら楽しめるまちになることで、滞在時間が延び、観光消費額の増が見込まれる。	705人/8時間	R5年度	1,000人/8時間	R10年度
市民主体のイベントへの参加者数	人	官民一体となったまちづくりへの参画の評価	地域住民主体のイベント実施や行政と連携したにぎわいを創出することで、地域活力の向上や地域コミュニティの機能強化が図られ、地域の歴史・文化の継承にも寄与する。	1,050人	R4年度	2,000人	R10年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【地域資源の有効活用】 ①観光客や地域住民の交流の場(まちなかハブ)の整備 ②空き家の利活用 ③休憩スペースの整備 ④回遊ルートの整備、設定 ⑤水辺を活用した魅力の向上 【周遊滞在の仕掛けづくり】 ①まちへの回遊を促すガイダンスセンターの整備 ②まちの魅力の情報発信 ③AR等を活用した回遊施策 ④回遊ルートの整備、設定 [再掲] ⑤水辺を活用した魅力の向上 [再掲] 【地域の魅力を活かし続ける体制づくり】 ①地域住民と一緒に事業計画の遂行 ②区域内の歴史・文化遺産の魅力発信 ③官民一体のイベント・PR活動		【基幹事業】 (高質空間形成事業) 河野宗泰家庭園緑地事業 (地域生活基盤施設事業) 水辺利活用事業(花峯橋活用) (滞在環境整備事業) 河野宗泰家活用事業 【提案事業】 (事業活用調査) 既存施設利活用調査事業
		【基幹事業】 (滞在環境整備事業) ガイダンスセンター整備事業 (滞在環境整備事業) 水辺利活用回遊促進事業 【提案事業】 (地域創造支援事業) 歴史・文化遺産伝承事業 (まちづくり活動推進事業) 観光PR事業
		【提案事業】 (まちづくり推進事業) まちづくり検討事業 (事業活用調査) 事業分析調査等 (地域創造支援事業) 市民活動支援事業
その他		
1 油津地区の国登録有形文化財 日南市における国登録有形文化財数は、41件であり、その内の21件が、本計画区域に点在している。この現状は、宮崎県内でも国の登録有形文化財が集中している地域だと言える。 そのため、国登録文化財を有効活用したまちづくりを展開することで、地域の持つ資源の魅力を十分に発揮でき、交流人口・関係人口の増を図ることが出来る。 2 市民団体等による油津地区の活性化活動 油津地区では、日南市中心市街地活性化事業(平成24年度～28年度)を機に、「まちづくり株式会社」や「株式会社油津応援団」などのまちづくりに取り組む団体が民間主導で創設され、先駆的な活性化事業に取り組んでいる。 加えて、地域住民で組織される「油津地域協議会」も地域のイベントの開催や防犯活動、地域福祉活動など幅広く活動している。 いずれの民間団体も、今後、本計画を進めるうえで連携が欠かせない団体であり、連携した取り組みを展開することで、計画区域内のみならず、広く油津地区全体、日南市全体への波及効果が期待できる。 3 油津まちづくり検討委員会(仮称) 地域の関係者で構成する油津まちづくり検討委員会(仮称)を設置し、地域住民と一緒に、事業の進捗管理をしていく。 また、油津まちづくり検討委員会(仮称)からの提言・意見等を尊重し、状況に応じて事業計画の変更も視野に入れ、最も効果的、効率的に事業遂行できるようにしていく。 4 市民ワークショップの開催 令和5年5月、6月に市民ワークショップを開催し、地域住民の意見を丁寧に拝聴することで、地域住民と一体となったまちづくりの構想を構築していく。		

様式(1)-④-3

(金額の単位は百万円)

...A

0...B

120

[illegible]

油津地区(第4期) まちなかウォーカブル推進事業(宮崎県日南市)

R7年度ver.

◆事業概要: 油津地区内に点在する既存ストックを有効活用した拠点整備や地域の歴史文化やまちへの周遊を促す情報発信をし、居心地がよく歩きたくなるまちづくりに取り組むことで、東九州自動車道の開通やクルーズ船の寄港再開に伴う、新たな人の流れを取り込み、交流人口や関係人口の増加を目指す。

◆事業主体: 日南市 ◆面積: 100.7ha ◆滞在快適性等向上区域 24.9ha ◆交付期間: 令和6年度～令和10年度

◆立地適正化計画公表時期: 令和8年4月 ◆全体事業費: 1,665百万円 ◆交付対象事業費: 1,545百万円(国費: 772.5百万円) ◆国費率: 50%

人口: 4万9千人(令和6年5月時点)

□提案事業(地域創造支援事業)
市民活動支援事業
R7: 市民団体の活動支援補助金

□提案事業(地域創造支援事業)
歴史文化伝承事業
R7: ガイダンスセンターの展示資料の整備

□提案事業(事業活用調査)
既存施設活用調査
R7: 民間投資による利活用の仕組みづくり

■基幹事業(滞在環境整備事業)
河野宗泰家活用事業
R7: 詳細設計

○関連事業
河野宗泰家活用事業(赤レンガ館分)

■基幹事業(高質空間形成)
河野宗泰家庭園緑地整備事業
R7: 休憩スペースとしての活用検討

■基幹事業(滞在環境整備事業)
ガイダンスセンター整備
R7: 工事

○関連事業
ガイダンスセンター整備事業(市執務室分)
R7: 工事

■基幹事業(地域生活基盤施設)
水辺利活用事業
R7: 詳細設計

□提案事業(まちづくり活動推進事業)
まちづくり検討事業
R7: 油津歴史文化遺産活用事業推進会議の開催

□提案事業(まちづくり活動推進事業)
観光PR事業

□提案事業(事業活用調査)
事業分析調査
R7: 通行量調査

■基幹事業(滞在環境整備事業)
水辺利活用回遊促進事業(体験創設等)
R7: コーディネート、体験メニュー創設
水辺利活用回遊促進事業(周遊促進)
R7: VR開発委託、周遊策検討

— 都市再生整備計画区域
— 滞在快適性等向上区域
■ 基幹事業
□ 提案事業
○ 関連事業

0 500m



周辺図



R6. 5月時点

都市再生整備事業事前評価シート

計画の名称: 油津地区(第4期) 都市再生整備計画 事業主体名: 宮崎県 日南市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○